



編集長(ダン シロウ)

第七号です。執筆者の皆さん、それぞれに趣向を凝らしてくださって、複雑な挿入資料や、イラスト、写真などの組み合わせが増えてきました。編集者としては、手に負えなくなっているものもあります。(技術未熟のせいです)

そのため、ご自分のレイアウトでPDF作成もされている方の原稿は、そのまま使わせていただきたいと思います。

乗り合いバスのようなマガジンなので、全体を通したデザインやレイアウトは、あまり強くこだわっていません。ご自分でページ構成も楽しめる方は、最初のタイトルやロゴは大きめに作成していただくと良いと思います。

ページナンバーは全原稿が出そろってから、改めてお知らせし、ナンバーを入れたものを再送していただく手間になります。どうぞよろしく。

今号の発行準備は、個人的にぎりぎりのことが重なった巡り合わせになりました。講談社 文庫で出すことになった「家族の練習問題1」文庫版の追加原稿締め切りが12月15日だったので、2012年2月20日発行のために、是が非でも締め切りと言われたのが12月のアタマでしたから時間がない。そんな中で並行作業をしていました。この間にも週末は、福島と東京で予定の仕事でした。

そのためマガジン発行は、おおかた何とかかなりそうなのですが、少し遅れるかな…と思います。なにしろ現在、12月14日の午後16時。

可能ならば、ここで一気に川原事務局長に全PDFを送信してしまいたいのですが、まだ準備

が全部は整いません。そして今から、出かけなければなりません。

また、新しい連載が一本始まりました。國友万裕さんの「男は痛い！」です。なかなか個性的なタイトルでしょう。お楽しみに。

編集員(チバ アキオ)

かなうことがないと思っていた願いが、ひとつかなった。随分恵まれている経験だと心から、感謝をしている。そして、このために数人の人が協力してくれた。こんなこともあるのだから、人生はおもしろいし、有り難いし、こうした人もまわりにいてくれるので、これからもがんばらなくては！と強く感じる。

あるお話を思い出した。社会福祉士事務所(独立型社会福祉士事務所)たかしまや便利堂の高嶋政伸氏の話である。高嶋氏は社会福祉士の事務所として、福祉に関するいろいろなお困りごとを扱っている。様々な福祉課題に取り組まれている。時には、高齢者の方が自分の親の生まれ故郷を死ぬまでに一度見てみたいという依頼を受けて、サポート体制を組んで一緒に旅をするという援助もある。そのお話は、とても感動的で、依頼者の願いがかなうことで、生きてきた喜び、生きている喜び、生きていく喜びを新たに。そこに関わる支援者の思いは忘れられない。

今回、自分自身「願い」がかなうということを経験し、その体験が、こんなにも支えになったり、意欲になるんだと感じました。また、そこに協力してくれた人もいて、その思い出も共有してこれからも時は流れていきます。援助とは、こういう仕事なんだなと思いました。

そんな願いの多くがこの対人援助学マガジンにもあふれています。

ご意見・ご感想

マガジンに対するご意見ご感想

danufufu@osk.3web.ne.jp

学会時にも販売しましたが印刷版対人援助学マガジン(1号~6号各1000円・全巻統一価格にしました)が少数ですが編集部にあります。ご希望の方はメールでお知らせください。メール便で発送します。

マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

対人援助学マガジン

通巻7号

第二巻 第三号

2011年12月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第8号は2012年3月15日

発刊の予定です。

原稿締め切りは2月25日!

執筆の方はスケジュール表に

記入を!

対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学大学院応用人間科学研究科内

TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

対人援助学会事務担当

入会・退会・変更届

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

表紙の言葉

私にとって音楽は必需品ではありません。聞いていれば楽しいですし、好きな歌や曲もたくさんあるのですが、やはり比重は大きくはないように、音楽がなければ夜も日も明けないなんて事はまったくありません。ウォークマンを買っても、Ipod シャッフルを買っても、その内、壊れたり、使わなくなってしまって平気です。音楽そのものへの感受性が乏しいのでしょうか。

このイラストは映画「Ray レイ」についての文章の挿絵として描いたものです。レイ・チャールズはご存じの方も多い、盲目のシンガーです。[what d I say]のフレーズが自動的に浮かびます。

私の年代の黒人シンガーとしては、ハリー・ベラフォンテ、ルイ・アームストロング、そしてレイ・チャールズと並びます。

女性ではロバータ・フラック。大ヒット曲 killing me softly with his song「やさしく歌って」(最近、ネスカフェのCM曲になった)が好きで、大阪・フェスティバルホール公演に出かけました。

どんな経緯だったのが忘れましたが、最前列中央のチケットが手に入り、張り切っていたのですが、知った曲が他になく、歌手の目の前で寝てしまいました。この原稿のためにamazonで映画のDVDを検索してみると、3枚組みの「Ray」追悼記念BOXが85%OFFで800円でした。あんまりなので購入しました。いつ観られるか分かりませんが、特典映像満載だそうです。

2011/12/15 団士郎